

第63回東北高P連大館大会に参加して

二学年委員長 大沼幹雄

「生きる事を 子供と共に 見つめて」を大会テーマに第63回東北地区高等学校 PTA 連合会大館大会が世界自然遺産白神山地の麓、忠犬ハチ公の故郷、大館にて7月4、5日開催されました。本校からは、黒沼教頭先生、會津 PTA 会長ら5名で参加して参りました。

初日は情報交換会、二日目は大館市民文化会館にて開会行事、その後会場を移し、研究協議にはいりました。内容は「単なる指導ではなく、地域と連携しながら自らの生き方を通し子供達を支え育成することが求められている。」という主旨のもと東北6県の発表、キャリアデザインとして学校、地域、歴代の秋田高P連会長達の発表とすすめられました。私達は山形県立庄内総合高校の「生徒と地域に寄り添って」、秋田県立比内養護学校「地域とのつながりを大事にした PTA 活動」に参加して参りました。庄内総合高校は山形県内で総合学科をもつ高校のパイオニアであり、それらの高校の道標となっております。又、挨拶運動を徹底しており、多くの表彰を受けられておりました。PTA 模擬面接の取り組みが就職率の向上に結び付いているとのことでもありました。

比内養護学校は知的障がいの小学、中学、高等部の児童・生徒が在籍。全校田植え、稲刈り、登山ロードレースで地域とのつながりを大切にしているとのことでした。卒業後の自活も前向きに取り組んでおられました。

午後からは東京演劇集団「風」による「ヘレン・ケラー～ひびき合うものたち」が公演されました。「風」は1987年創立、1999年東中野に専用劇場を建設する実力派。1995年の初演以来、全国で900ステージ以上の上演を続け、中学生、高校生を中心に先生方、保護者との交流会を積み重ねております。作者の松兼功氏は脳性マヒによる重い障がいをもっておられるが、乗り越えようとは考えていないとのことでした。教育の原点、可能性を考えさせられるすばらしい作品でした。

今大会参加により、子供たちが自己肯定感を持ち、自己実現を果たせるよう親として心掛けて参りたいと思います。